

経済産業委員会

令和2年9月3日（木）
午後0時59分～午後3時06分
議会第3会議室

【出席委員】千綿正明委員長、宮崎 健副委員長、御厨洋行委員、山下伸二委員、
野中宣明委員、重松 徹委員、山口弘展委員、川原田裕明委員、
江頭弘美委員

【欠席委員】なし

【委員外議員】なし

【執行部出席者】

- ・経済部 梅崎経済部長
- ・農林水産部 碓農林水産部長
ほか、関係職員

【案件】

- ・付託議案について

○千綿委員長

それでは、経済産業委員会を開催いたします。

審査における注意事項を申し上げます。

執行部におかれましては限られた時間で集中的な審議が必要ですので、簡素な説明を心がけてください。

なお、決算額の数字の読み上げは必要ありません。

また、答弁は役職に関わらず、質問に対して回答できる方が答弁していただくようお願いいたします。

次に、委員の皆様申し上げます。

質疑は決算審査ですので、その範囲内でよろしく申し上げます。特に市政一般や予算に関する質問にならないようお願いをいたします。また、一度に多くの質問をされますと答弁が分かりにくくなりますので、質疑される場合は、資料におけるページ数などで質疑項目の該当箇所を示していただき、1回の質問にて2問ぐらいに絞っていただければ幸いです。

なお、この度の決算審査は委員会としての意見提言を数項目まとめることとなりますので、そこを踏まえた上での審議をお願いします。

それから、審査に関連して現地視察の希望がございましたら、マイクロバスの都合がありますので、お早めにお申し出ください。

それでは、審査に入りたいと思います。

第70号議案 令和元年度佐賀市一般会計歳入歳出決算中、歳出6款1項農業費について執

行部からの説明を求めます。

◎第70号議案 令和元年度佐賀市一般会計歳入歳出決算中、歳出6款1項 説明

○千綿委員長

それでは、とりあえずここで区切って、皆さんの御意見、御質問等があれば受けたいと思います。

○山口委員

22番の資料の161ページ、有害鳥獣駆除対策事業なんですけど、この1,240万円という事業費が、昨年もしくは一昨年あたりと比べてどういうふうな推移になっているのか。それと、この1,447万円かかった事業費のうち、重立ったものでいいですから内訳がどうなっているのかを教えてください。

○山田農林水産部副部長

先に内訳のほうからよろしいでしょうか。

内訳としましては、佐賀北部地域有害鳥獣広域駆除対策協議会負担金が577万2,000円、佐賀市鳥獣害対策協議会負担金が669万8,000円となっています。内訳としましてはこの2つになります。

昨年度と比較しますと、決算額自体は800万円ほど減額しておりますが、そのうち700万円につきましては、平成30年7月豪雨対策分ということになりますので、実際の通常事業費でいきますと大体100万円ぐらいの減額ということになっています。

○山口委員

この鳥獣駆除に関しては、今でもよく一般質問でもまだあっているように、まだまだ被害が出ているように感じておりましたので、対前年比から比べたら若干上がっているのかなと思っておったんですけども、この北部や佐賀市の対策協議会にそれぞれ570万円、約670万円ずつの補助を出したということは、これは減額になっている、捕れた頭数、捕獲した数がイコール少なくなったということなのか、それとも、単価が安くなった——単価が例えば高くなったとか安くなったとか、そのあたりの内容はいかがなんでしょうか。

○山田農林水産部副部長

捕獲頭数自体は、佐賀北部では有害獣類のほうの駆除をやっておりますけども、捕獲頭数は749頭ほど減っております。その分で報奨金を出しておりますが、その分の減額が大きいものかと思っています。

○江頭委員

そもそも被害総数というのは把握されているんですか、年々。よく聞くんですけどね、特に中山間地のイノシシ被害の。被害総数というのはどういう推移になっているか、その説明をお願いします。

○農業振興課廣田副課長

農作物に関する被害になりますけども、まず被害面積なんですけど、令和元年度獣類被害

による被害が約13.5ヘクタール、それと鳥類被害が約18ヘクタール、合計で31.5ヘクタールとなります。被害額に直しますと、獣類被害が約1,730万円、それと鳥類被害が約1,000万円、合計の2,730万円となっております。

○江頭委員

今のは令和元年ですよ。いや、私はずっと——過去3年ぐらいまで、その推移はわかりますか。

○農業振興課副課長兼農政係長

まず、前年度比較をさせていただきます。先ほどお話ししました獣類被害の農作物の被害面積は合計で令和元年度31.5ヘクタールと言いましたけども、平成30年度が28.5ヘクタールとなりまして、約3ヘクタールの被害面積の増ということになります。あと、農作物の被害ですけれども、先ほど令和元年度が約2,730万円と言いましたけれども、前年度が2,340万円、前年度と比較しまして約390万円の増となっております。

○江頭委員

そうしたら、今、通常の事業費として100万円減ぐらいといっても、被害面積にしても被害額にしても増えているじゃないですか。そして、今、山口委員も言われたように結構一般質問でもこの質問が出ていて、もっと事業費をかけても対策をやるというのが普通じゃないですかね、これだけ被害がずっと出てきている以上。その点について検討というのはどういうふうに考えられているのか。

それから、当初予算でもこのぐらいの事業費なんですか。

○農業振興課職員

今、委員が御指摘いただいた件でございますが、昨年度の決算の委員会におきまして、鳥獣害対策の推進ということで予算づけをしてでもということの御指摘を頂戴しております。附帯決議を頂戴いたしてございまして、それに対応する形で、鳥類に関しましては本年度、出産期前の年度末に個体数調整を目的とした捕獲の予算別立てをいたしまして、設定しております。これにつきましては、従来行っている駆除の半額を今年度の予算として頂戴しているところでございます。獣類に関しましては、報奨金制度を運用してございまして、そこで捕獲数というところですが、やはりその捕獲をする猟師の活動量に応じたところと、やはり平均して取れる年と取れない年というのも発生してございまして、本年度につきましては、捕獲個体数が今、増加しているという速報ベースでは数字が上がってきているところでございます。

○山口委員

先ほど北部の方で749頭少なかったということなんですが、これはこの年がたまたま生息数自体が少なかったのか、それとも、猟友会の活動で、要は生息数は多かったけれども、捕れる数が少なかったのか、どちらですか。

○山田農林水産部副部長兼農業振興課長

イノシシ、アライグマの捕獲につきましては平成29年度までは4月から10月までを捕獲期間としておりましたが、平成30年度から通年捕獲に変えております。ですので、平成30年度の捕獲数は2,138ということで前年度から652頭ほど伸びておまして、それによって個体数がもちろん減っておりますし、同時に繁殖も防ぐことができたということで、令和元年度は個体の生息数そのものが少なくなったんじゃないかというふうに推測しております。

○千綿委員長

それは生息数が少なかったので、捕獲数も少なくなったという理由ですね。要するに、749頭の減の理由ですよね、先ほど聞かれているのは。その減の理由は、前年度結構捕ったので、生息数が減ったんだろうという理由でいいんですか。

○山田農林水産部副部長兼農業振興課長

繁殖が防げて、出てくる個体が減ったということですね。

ただ、令和2年度はまたちょっと増えていますので、大体表と裏で繰り返すような感じで推移しているものですから。

○江頭委員

でも、被害額は、今言ったように、面積にしても額にしても増えているじゃないですか。要は、ここの農業者にとっては増えようが増えまいがとにかく被害が出ちゃいかんとですよ。少しでも減ることが望ましいのであって、それに対する捕獲という問題じゃなくて、被害をいかに抑えるかというところから言えば、そのところの事業費、今後つける対策費というのは考えていかないと、これだけ被害が増えているというところでは関係者の人も納得できないんじゃないかなと思うんですけど、その点いかがですか。

○山田農林水産部副部長兼農業振興課長

やっぱり対策としてはなかなか根絶というのは難しいんですけども、研修会なんかでよく言われることは、集落に近づけないための対策ということで、生ごみとか農作物残渣を捨てないとかいうところとか、あと、侵入防止策ということでワイヤーメッシュといった防止柵の設置の支援とか、その後の適切な管理、それと捕獲対策ということで効率的に捕獲するということですね。そういった3つをバランスよくやっていくということで、行政はもちろん、対策に向けて、いろんな形で支援していきますけれども、地域の方に対しても、ちょっと協力いただきながら、やっていきたいと思っております。

○江頭委員

具体的に言って、たまたま今日昼休みの時間うちの会派の中で、イノシシ被害が出てという話がありました。ワイヤーメッシュを突き破っている。要は、イノシシもかなり狂暴性というんですか、そういうふうな状況だということがたまたま出て、この質問になっているんですけど、そういう部分。要は、ワイヤーメッシュでも突き破るような状況がやっぱり頻繁に見られているんですか。その実態はどうなんですか、報告が上がっているのか

どうか。

○山田農林水産部副部長

一応、富士のある地域からそういう話は何日か前に聞きました。ワイヤーメッシュの上からかぶせて、入ってくるというですね。だから、電気柵とかいったものの設置の支援をしてくれないだろうかという相談はあっておりますので、できるだけ対応するように考えているところです。

○重松委員

22番の資料の162ページ、トレーニングファーム整備推進事業ですね。富士町に定住して地域農業の担い手ということで、ちょっと確認ですけども、これは年齢制限があったと思うんですけども、何歳までかとか。それと、新規就農者を目指す人たちは、何と申しますかね、生活費だけでいいのか。例えば、研修費は自己負担なのか、そこら辺ちょっと2点。

○山田農林水産部副部長

年齢については原則50歳未満ということになってはいますが、50歳超えても大丈夫です。原則が50歳未満ということですね。

あと、2年間の研修がありますけども、研修費用というのは一切取っておりません。逆に、その資金として年間お1人150万円とか、年齢によっては120万円になりますけども、そういった形で資金交付もしているところです。

○重松委員

2年間の研修期間ですけれども、最初の方は平成30年の1月から令和元年の12月で一応研修期間は終わってありますね、1人。この方は就農者としてちゃんとやっていますか、状況はどうなんですか。

○農業振興課副課長兼生産者育成係長

第1期生の方は2年間の研修を修了されまして、研修施設のすぐ横に、ハウスを8棟、24アールのハウスを新しく作られまして、そこで営農を開始しておられます。

○山下伸二委員

22の資料の175ページ、下のところの水草除去事業なんですけども、経費が昨年度と比べると550万円ぐらい増えているんですね。その状況ですね、これは毎年いちごのところがあって、なかなか抜本的な対策ができないというのは分かっているんですけども、こういった外来種が増えている状況なのか、ある程度除去によって抑えられているのか、ちょっとその辺のイメージを教えてくださいなんですけども。

○鐘ヶ江農村環境課長

外来種の状況は増えております。ナガエツルノゲイトウに関しましては、取っても取ってもということで、除去作業が予算で取っている分ではとても追いつかない状況、繁殖状況に追いつかない状況です。

あとブラジルチドメグサは、ナガエツルのほどではないですけど、やはり今回の補正をお願いするぐらい当初予算で取れていない状況にあります。

○山下伸二委員

補正を組んででも被害を未然に防ぐためには必要なんでしょうけど、これは毎年500万円単位でこれから増えていくとなると、恐らく比例して増える額もあると年間1,000万円とか2,000万円とか増えてくる可能性があります。その辺、根本的な、抜本的な対応とか対策とか、そういったことについては研究とか検討は進められているんでしょうか。

○鐘ヶ江農村環境課長

まず、ナガエツルノゲイトウですが、主に嘉瀬地区に集中しておりますので、嘉瀬地区が県営クリーク防災事業に、今、準備に入っています。来年——実際には工事は令和4年度から本格的になってくると思うんですけど、そこから10年間かけて整備するという、その整備に当たって、今は見えている部分だけを重機とか手で除去している。今回のクリーク防災事業はしゅんせつを行いますので、一番ネックだった根から除去ができるという、根本から取っていくという作業ができるようになりますので、それに合わせて、県営クリーク防災事業の対象外の路線というのは、そこは市であったり、地元の、例えば、一緒になって多面的事業とかで協力してやっていきたいなという方向で考えております。

ブラジルについては同じようなクリーク防災事業じゃないので、そこはまた別途考えていきたいと思っておりますけど。

○山下伸二委員

今、嘉瀬地区が特に多いということなんですけども、これは恐らくどこに出てきてもおかしくないだろうと思うんですね。そういった、今生えているところの対策とかも含めて、予防といいますか、そういったことについては何かされているのかどうか、最後にそれだけ。予防というか、事前の動きを察知するとか、そういったための監視だとか検討だとか、そういったことをされているのかどうか、そこを教えてくださいと思います。

○農村環境課副課長兼農業土木係長

多面的機能交付金という事業で、嘉瀬地区のほうもそこが入っております。その中で、地元のほうにもお願いという形で、今月も2回ほど行きまして、北島の多面的機能の活動組織に除去のお願いに行きました。8月26日にも荻野地区のほうに行きました。今後ずっと同じように、アンケート調査の聞き取りの中で、我々の除去等の意見交換を含めて、地元のほうに除去のお願いと、我々でも実は昨年11月ぐらいから毎週、職員のほうで行ってございまして、2回ほど夏場で、暑くて職員のほうから、いや、今週は無理よという話で、そういう状況を含めて、鋭意努力していっているところです。

先ほど課長のほうから言いましたように、クリーク防災事業で、のり面にコンクリートを張るということになっていきますので、ある程度、今後その事業が入っていくところにつきましては、繁茂が抑制されていくんじゃないかというふうに期待しているところです。

○山下伸二委員

ということは委託料は550万円で毎年増えるけども、それプラス市の職員のパトロールだとか、実際に直営で除去されている、そういった手間暇も、これに比例するぐらいで増えているという認識でよろしいですかね。

○農村環境課副課長兼農業土木係長

まさしくそのとおりでございます。

○千綿委員長

ちなみに、うちの前も毎年出るんですよ。この間取ってもらったけど、また増えてますもんね。少し残っておるだけでも旺盛な繁殖力を持っているんですよ。

だから、逆に佐賀大学の農学部とか、そういったところに相談して、これを除去する前に、先ほど山下伸二委員が言われたように、壊滅させるような方法とかを、遺伝子組替えとかそれがいいかどうかは別として、何らかの方法で除去できるような方法がないのかとか相談に行かれたりしていますか。

何年か前に実験されたじゃないですか。要するに、根を揚げて枯らすとかいろいろ方法はずっと実験してあるでしょう。それが結局、効果は出ておらんわけですよ。全く。それも多分年々ひどくなっています。だから、抜本的なところを考えないと、確かに除草剤いかに分かっておっても、やっぱり地元であれだけ繁殖されたら正直困るとですよ。うちの家の前にもかなり繁殖しています。

そこら辺されましたか、佐賀大学とかの研究機関とかの。

○礎農林水産部長

ナガエツルノゲイトウが出て、非常に繁茂速度も速いし、最強の水草ということもあって、佐賀大学の農学部の学長のところに相談に行きました。ナガエツルノゲイトウという話を聞く大学の先生たちが、聞いたことはないということで、とにかくどなたか紹介していただませんかということで紹介してもらったんですけども、1人の先生が、自分は雑草のことは詳しいけども、ナガエツルについては全く無知なので、ちょっと無理だなというところで、今度は水理学の先生を紹介してもらって、ナガエツルノゲイトウの撲滅は無理だけど、水の流れによってナガエがどういうふうに繁殖するか、そういったものは調べられますということで、私どもの考えとちょっとマッチングができなかったんで、それ以上先には進んでいない状況です。

とにかく私どもも、ナガエツルノゲイトウが発生してから何回となくいろんな実験をやっています。例えば、いろんな種類の除草剤をかけてみて何倍で死ぬのか。薄ければ2回かければ死ぬのかとか、そういう実験をやったり、あと、ナガエツルノゲイトウは植物なので、植物の3要素の水、光、空気、そのうちの光を与えないと死ぬということが植物はありますので、その実験をやったところが、真っ暗に——真っ暗というか、黒いカバーをかけて、約1年かけたらやっとなら死んだというような実証実験をやりました。

それとあと、今、下水道でやっている堆肥化ですね。堆肥化の中にカーボンを入れたほうがいいということだったので、ナガエツルノゲイトウは草なので、カーボンがいっぱい入っているので、それを肥料に混ぜてもらえないかというところで、それも実証実験をやりましたけども、何せ水草なので、含水比が非常に高いんですね。そのまま混ぜたらば、べちゃべちゃになって肥料ができないということで、1回細かくカットして、乾燥させて肥料にするということで、それがまた非常に手間がかかると、費用がかかるとということで、それもちよっと断念したというところです。

今後、私どももいろんなところに相談しながら、除草剤で殺すのが一番いいとは思いますが、それは佐賀市として化学物質のガイドラインがあって使うなということになっていますので、それは使えないので、それに代わるような話を今聞いておりますので、それが使えるか使えないかは別にして、ちょっと今ここで公表はできませんけども、いろんな話は常日頃からやって、危機感を持ちながら水草の対応はしているつもりでございます。

○野中宣明委員

167ページ、6次産業化についてですけども、この6次産業化を取り組まれた件数を、ちょっと過去をさかのぼって数の推移を教えてくださいたいんですが。

○農業振興課地産地消推進係長

6次産業化の取組件数でございます。

6次産業化に取り組まれた件数は、うちのほうで補助金という形でよろしければお答えさせていただいてよろしいでしょうか。

令和元年が7件でございます——すみません。至急調べさせていただいて報告させてよろしいでしょうか。申し訳ございません。

○千綿委員長

ちなみに、6次産業化は何年か、もう四、五年たちますよね。大体私も勉強会に行ったときは、成功率は3%と言われていました。3年残るのが3%。国は確かに6次産業化を求めています、私はあまり効果ないと思うんですよ、正直。本当に成功した、3年続いているのがないんですよ。商品化までしました、でも、販売ルートがないので、2年目で終わりとか。

そしたら、後で口頭で。調べられたら。

○農業振興課地産地消推進係長

手元に元年度分を持ってきていたものですから、申し訳ございません。

○重松委員

22の資料の166ページ、担い手農地総合対策推進事業。これは青年就農者ということで、全く新規の就農者が対象なのか。

というのは、5年間で、1人当たり年間150万円の資金を交付するというですから、5年間で750万円あるわけですね。例えば、新規じゃなくて、今ナスビのハウスとか、ナス

ビ園芸をされた方がトマトに変えたいと。この方は年収1,000万円とか、物すごく多い。そこが業種転換というか、トマトに変えると。そういった場合もこれはもらえるんですか。

○農業振興課副課長兼生産者育成係長

この農業次世代人材投資事業の経営開始型ですけれども、これはあくまでも就農開始後5年間ということに要件がなっております。

○千綿委員長

だから、答弁になってないので。聞かれてるのは、業種が変わって、要するに品目が、種類がトマトから例えばほかに変わっても出るんですかと聞かれてるんですよ。

○農業振興課副課長兼生産者育成係長

それはあくまでも農業を始めてからですので、違う物で農業を始めてからの年数になりますので、農業を開始してから5年間しかもらえないというような事業です。ですから、途中で変わっても、その5年間の間に途中変わるのであれば、対象にはなりません。

○重松委員

例えば、この資金をずっともらっていて、途中で辞めた場合、これはそのまま、何とかな、返納しないといかんですか、それとも逃げ得ですか。

○農業振興課副課長兼生産者育成係長

受給年数ですね。例えば、2年間もらったら最低2年間は就農を続けないと返還の対象となります。

○山口委員

172ページ、173ページにまたがるんですが、農業用施設維持補修経費の中の原材料費、それから、その下の大きな丸の農業用水路浚渫経費、この2件に関して対前年比がどうなっているのか、増えているのか減っているのか。増えていても減っていてもその理由までお示してください。

○農村環境課副課長兼農業土木係長

原材料費につきましては、金額的には変わらないということで、通常の地元のほうにお渡ししている分ということで、対前年比は変わらないということになります。

あとは、水路浚渫経費につきましては、通常の方よりも災害査定の際の40万円以下の部分につきまして、この水路浚渫経費ということで申請していただいて、その実質額の7割を補助するというので、そこにつきまして、お金を頂いています。

○農村環境課農村環境整備係長

浚渫経費の数の内訳なんですが、平成27年度で総数としては37件、平成30年で35件、令和元年度で38件になっております。

○千綿委員長

金額とかは分からない。

○農村環境課農村環境整備係長

金額は、平成30年が169万3,000円です。令和元年が145万7,000円になっております。今の金額は災害を除いたしゅんせつだけの経費となっております。

○山口委員

今ここに上がっている1,490万円というのは、水路浚渫経費で上がっているわけですね。さっき言われた38件の元年度分で145万円幾らと言われたのはちょうど1桁違うんですけど、それ以外の部分というのは、さっき石丸係長から説明があったように、災害等での7割補助の分、その件数がこれだけ一千何百万円もあったということなんですか。

○千綿委員長

15分まで休憩します。

◎午後2時04分～午後2時15分 休憩

○千綿委員長

答弁できるように調整できましたか。

まず、今聞きよったところから行こうか。

○農業振興課地産地消推進係長

すみません、担当課長が今、事務所のほうまで調べに行っておりますので、いましばらくお待ちいただいてもいいですか。

○千綿委員長

そしたら、その前のやつで分かったら。

○農業振興課地産地消推進係長

申し訳ございませんでした。

市の補助金で始めてみよう！6次産業化の取組件数を5か年申し上げさせていただきます。平成27年度7件、平成28年度8件、平成29年度6件、平成30年度7件、令和元年度が7件でございます。

○野中宣明委員

そしたら、今言われた数字、これは市としてはどのように思われていますか、満足されていますか。

○農業振興課地産地消推進係長

この事業の評価でございますけれども、まず、事業そのものは試験的なもので始めていただく形になってきます。こちらがそのまま商品化できれば、一定の評価が出てこようかなと思っておりますけれども、今私が持っている資料は令和元年度で7件中5件が商品化に行き着いたという状況でございます。

○野中宣明委員

件数は分かったんですけど、6次化全体の事業費の推移というのは、じゃ、件数はほぼ変わらないんですけども、事業費もほぼ変わらないんですかね。そこら辺の増減を教えてください。

○農業振興課地産地消推進係長

事業費でございますが、始めてみよう！6次産業化の補助金は、2分の1が補助率になっております。令和元年度で申しますと、総事業費は389万2,764円、そのうち2分の1補助で上限がありますので、175万5,000円が補助金額でございます。

○野中宣明委員

過去からすると、その増減の推移はどういう状況ですかね。件数と照らし合わせて。

○農業振興課地産地消推進係長

5年間の推移を数字で申し上げます。

平成27年度が総事業費468万6,000円に対し、199万円です。平成28年度、270万6,000円に対し、121万2,000円です。平成29年度、320万3,000円に対し、193万1,000円が補助金です。平成30年度、297万円の総事業費に対し、補助金は168万6,000円でございます。1,000円でまとめさせていただいております。

○野中宣明委員

この6次化をやるに当たっては、いわゆる販路をどう開拓していくかとか、販路をどう広げていくかというところが課題点だと思うんですね。この目的としては、6次化をされる農家の所得が向上するということだと思いますので、ここで168ページのいいモノさがしですね。これで何かPRされたということで決算書に数字を書かれているんですけども、その効果はどうなっているんですか。

○山田農林水産部副部長

いいモノさがしの認定ですけども、これについては、令和元年度実績で、14事業者41商品があります。売上総額が3,630万円ということで、前年と比較すると157%増という形になっています。

それと、いいモノさがしに認定された物につきましては、希望があれば、ふるさと納税の返礼品にもなるということで、その分でいきますと、これはいいモノさがしとセットで売るものですから、少し金額の整合性につかないんですけども、令和元年度のふるさと納税返礼品として、1,188件、5,710万円の実績があるという形になっています。

○野中宣明委員

冒頭に教えていただいた6次産業化にどのくらい取り組まれているか、数の推移でいえばほとんど変わらないんですよ。7件、8件、6件、7件、7件という形で変わらない数字で動いているんですけども、やっぱり課題点は加工技術とか、農家が加工技術を新たに身につけないといけないということとか、新たに自分から販路開拓とか拡大しなきゃいけないというような課題点が挙げられると思うんですよ。

そうなってくると、どうしても補助金に頼ってしまうというところがありますので、いわゆる予算的なもの、補助金的なものがある程度増えていくということも一つの要素になってくるかなという感じはあるんですけども、そこら辺で、今後この6次産業化に対し

ては市としてはどうですかね。件数とこの現状と、今後どのように取り組まれていこうとされているのか。

先ほど委員長からも一言あったんですけども、結構、成果としては全国的に見ても確かにどうなのかなというところもありますので、そこら辺を佐賀市としてどのように考えてあるか、お尋ねしたいんですけども。

○山田農林水産部副部長兼農業振興課長

それに関しては横ばい状態でありますけども、この6次化自体は農家の所得向上、販路拡大というところに寄与する事業というふうに捉えております。

167ページの下のほうに収集した情報のリスト化470件というふうに記載しておりますけども、この470件というのは生産者や事業者、事業者というのは百貨店とか、レストランとかスーパーとか、それとかあと支援団体ということで商社、大学、そういった方々のリストでありまして、生産者が6次化を希望されれば、それに対応するような事業者をそのリストから探し出してマッチングしていくとかいう取組をやっておりますので、6次化自体は今後も継続して進めていきたいとは思っております。

○野中宣明委員

マッチング事業に関しては誰がやられているんですかね。コーディネーターとかなんか専門でいらっしゃるのか、また、部署同士で連携しながらされているのか、もう少しそこら辺、取組を教えてくださいいいですか。

○山田農林水産部副部長兼農業振興課長

農業振興課のほうに専門の嘱託職員がおりまして、その職員がしております。

○野中宣明委員

その嘱託職員という方は、どういう方ですか。

○山田農林水産部副部長兼農業振興課長

元JAの職員です。

○野中宣明委員

人数をちょっと教えてくださいいいですか。

○山田農林水産部副部長兼農業振興課長

人数は1名です。

○野中宣明委員

そしたら、1名尽力されているということなんでしょうけども、その辺で効果を見ながら、例えば、人員を増やすであるとか、ほかのところと連携するとか、そういった考え方というのはあるんですかね。今後について。

○山田農林水産部副部長兼農業振興課長

商業のほうと当然連携しながらやっていきたいということで、例えば、施策を行うに当たり、生産者に加工設備等がない場合は、加工を受託していただける業者がおりまして、

そういった方も商業から情報を得ながら紹介するとか、そういったものを行っているところでございます。

○農業振興課地産地消推進係長

アドバイザー的なものですがけれども、佐賀市のいいモノさがしの認定委員会を組織しております、7名の委員になっていただいております。こちらは県のアドバイザーのほうも取得されている方もいらっしゃいますし、商社の方もいらっしゃる、大学の先生もいらっしゃるということで、その方に開発についてのアドバイスとか、販路についてのアドバイス、仲介についてもしていただいたこともございますので、このような方々との連携も必要だろうと思っております。

○野中宣明委員

連携も必要だと思っておりますということは、今はされていないということなんですかね。

○農業振興課地産地消推進係長

実際、昨年、いいモノさがしの委員の仲介でマッチングを行って、加工品、干しガキでしたけれども、販路開拓に成功した事案もございます。今、実際させていただいております。

○碓農林水産部長

先ほどから担当が言うように、いろんな知識をお持ちの方と会議を開いておりますので、そういったところで6次化産業する方と話をしながら、より強化をしていきたいというふうに考えております。一農家の方は農作物を作るのは得意かもしれませんが、商品開発であったり販路開拓という、なかなか自分たちが今までやってきていない分野に手を出すということになれば、やっぱりアドバイザー的な人がいないと、どうしても無理がありますので、そこを今現在、佐賀市のほうでも取組をしていますので、要望をいろいろ聞きながら、やれることをどんどんやっていきたいと思っておりますので、協議しながら頑張っていきたいと思っております。

○千綿委員長

部長、今まで6次産業化で補助を出しているじゃないですか。製品化して、実際その製品がどのくらい売れて、農家収入がどのくらい上がったという追跡をしないと、結局この目的は農家所得を上げるためでしょう。今までの補助事業の中で、例えば、何十か所か補助を出されていると思いますが、そのおかげで、例えば、農家収入がどれだけ上がったというその効果を検証しないと、ただやみくもにしたってなかなか、商品が3年続いて売れているってほとんどないですよ。だから、そこをやらないと、それをまず検証しないと駄目ですよ。頑張っていきますじゃないです。要するに、これだけ上がりましたと成功事例を作ったら、あとはそれで広がっていきますよ、当然ながら。その効果がないから、なかなか申込者も上がらないという部分があると思うんですよ。だから、そこは検証をまずせんと。今までの6次化の補助を出したところは、実際、たまねぎドレッシングとかあるた

じゃないですか。今でも売っているのか売っていないのか。多分3年以内に止めるパターンって結構多いんですよ。そこをまず検証してくださいよ。

だから、そこを調べないことには、頑張ります、やりますで、本物になるのかと、農業所得が上がるのかと。その検証が必要じゃないですか。

○礎農林水産部長

今、6次化商品も佐賀市もいいモノさがしというパンフレットを作って、全部で50品弱ぐらいありますので、農家の方たちにも話を聞きながら、どのくらいの売上が上がっているのか、そういう実績を確認しながら、そういったものについて、できていない部分については少し補足しながら応援していきたいというふうに考えております。

○千綿委員長

ほかにございませんでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

ないようですので、続いて、林業費かな——分かりましたか。

○農村環境課農村環境整備係長

すみませんでした。平成30年度の件数ですが、通常のしゅんせつが35件ありました。団体も35件ということです。金額としましては、169万3,000円になります。災害のほうで対応した件数は71件です。そのうち団体としては17件ありまして、金額として666万円となっています。

令和元年度の水路しゅんせつの件数ですが、通常が38件ありまして、団体が22件です。金額は145万7,000円。豪雨で対応した分に関しては、件数で44件、団体が5件になっております。金額は1,344万6,500円となっております。

○千綿委員長

ほかにありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

ないようですので、2項の林業費の説明をお願いします。

◎第70号議案 令和元年度佐賀市一般会計歳入歳出決算中、歳出6款2項 説明

○千綿委員長

ただいま説明いただきましたので、皆さんの御意見、御質問があれば。

○山口委員

今御説明いただいた一番最後の分、152、153ページの造林事業費の中の19節負担金補助及び交付金で、もともと700万円の予算を組んでいたが、約500万円が不要になっているわけですね。木材の下落にというようなお話だったんですが、その分もうちょっと詳しく御説明いただけますか。

○副島森林整備課長

こちらは木材価格の下落ではなくて、下落したのは2月ぐらいから——2月というか、4

月ぐらいがコロナの関係で一番下がってきているんですけど、それよりも途中の育林というか、そういった形での木の質ですね、こちらのほうが通常よりも著しく、思ったよりも高い価格で売れないような木しか採れなかったということでございます。

○山口委員

それは売れないような木しか採れなかったと言われるのは、それは伐採してみないと分からない結果なんですかね。

もともと700万円も組んでおいて、たった200万円しか使わずに、500万円が全く不要になったという、この最初の予算組み自体のところは果たしていかなものだったのかな。それは大丈夫、このとおりでと思っていたけど、実際さっき言ったように、切ってみないと分からない。切ってみて実際出そうと思ったら、とてもじゃないけど売れないような木ばかりだったというように捉えていいんですかね。

○副島森林整備課長

私どももこちらのほうを予算化するときには、予定している山に入っていくって、一本一本木の調査をするわけではなくて、大体1ヘクタール当たり450立米ぐらい木があって、その3分の1、30%ぐらいの間伐をしていくわけなんですけども、売ったときに例えば、よく真っすぐでいい木をA材とか言いますが、たまたま今年度については木材の質が、間伐した木が、この中でいい木が採れなくて、こういった形になってしまったというふうに報告を受けております。

○千綿委員長

だから、さっきもう一つあったのは、700万円組んでいて500万円要らなくなっておるのは、そもそもの組み方がという話でしょう。そこは。

○副島森林整備課長

事前に、先ほど毎木調査をせずにというふうに申し上げたのは、毎木調査をするためには、山に入って境界を確認しながら一本一本測っていくことになるので、相当な費用がかかってくるわけなんです。ですから、予算立ての段階では、そこまでのことはせずに、一般的にそういった、このくらいの収益が出るんじゃないかということで組んでいるところなんです。

○千綿委員長

毎年そんな感じなんですか。

○副島森林整備課長

そういったことで誤差が生じていて、毎年そのような形で誤差を生じております。どうしても返すお金がないと困りますから、その辺りは配慮しながらということになってまいります。

○山下伸二委員

181ページの経常的な経費ということで説明はなかったんですけども、地域おこし協力

隊事業なんですけれども、これは以前なかなか応募者がなくて、定員1名でしたけれども、ゼロだったということがあったんですけども、昨年度の実績がどうだったのか。この事業によって、ちゃんと地域おこし協力隊員が確保できたのかどうか、その方がどのような活動をされたのか、そこをちょっと確認させてください。

○副島森林整備課長

大変残念ながら、募集活動ですね、全国的にもそういった方を集めることができるイベントとかにも参加しながら募集を行ったところなんですけれども、昨年度から、また今年度も今のところ確保できていない状況でございます。定員は1名です。

○山下伸二委員

ということは、年度当初でされているんですけども、今年度、令和元年度分も費用をかけて募集したけども、結局、地域おこし協力隊は今、1名の定員は誰もいなくて、今年度もその状況が続いているという認識でよろしいですか。

○副島森林整備課長

現在いらっしゃるけれども、今も募集を続けている状況でございます。

○山下伸二委員

足かけ2年間、こういった地域おこし協力隊員がですね、事業費は10万円程度ですから、多分、旅費だとかイベントへのそういったことなんでしょうけども、なかなかこういうコロナ禍で人の行き来もできないし、地域おこし協力隊として来ようという方もいないでしょうし、やっぱり条件が悪過ぎるんじゃないかと。給与とか条件、そういったものについて緩和するとか見直すとか、そういった方策を講じないとなかなかこういった事業を続けても、魅力的なものとして人が寄ってこないような気がするんですけど、その辺についての考えをお示しくください。

○副島森林整備課長

その辺りについては一般質問等でも御質問いただいているところなんですけれども、私どもも林業も、全国的に見ると、いろんなところで同じような募集をされていて、競争が激しいところもありますので、その辺りは議員御指摘のとおり、こういった方向性にするのか再検討していきたいと考えております。

○千綿委員長

ほかには。

(「なし」と呼ぶ者あり)

ないようでございますので、次に行きます。

次、3項の水産業費について説明をお願いします。

◎第70号議案 令和元年度佐賀市一般会計歳入歳出決算中、歳出6款3項 説明

○千綿委員長

ただいま説明していただきました。何か質問とかあれば。

○重松委員

185ページ、22の一番上の塩水対策事業、これはノリ加工するとき塩分を含んだ排水を農業用水路に流出させるということで、農作物が嫌がるということですけど、それよりも今までそういった排水を流すことによって周辺のクリークが真っ赤になって、プランクトンとか微生物が死んで悪臭がすごかったんですね。最近は大分減ってきているんですけど。その対策はどうされていますかね。

○糸山水産振興課長

悪臭が減っている対策といたしましては、まず、佐賀市として推進しておりますのは、漁協が行う協業化施設への補助金です。できるだけ協業化を行ってください、そして、町なかから抜けて郊外へ行っていただいて、そこでやっていただければ、町なかの悪臭とかそういったものは取れるということで、それを推奨いたしております。

そのほかといたしましては、まだ川副町とかそちらのほうには、町なかのほうに1件の加工所とか数か所にありますけども、そういったものに関しましては、土地改良とか支所と連携しながら、時々クリークの水の入れ替え、そういったものを行って、悪臭の軽減等には努めております。以上でございます。

○重松委員

一番下のストックマネジメント事業、これは航路のしゅんせつ工事がメインだと思えますけども、今回、早津江川の堆積土のしゅんせつについては、国交省が河川じゃないとできないと、河川以外はできないということで、航路については佐賀市が請け負うようになったんですけども、この堆積土はどこの河川、例えば、八田江川とか本庄江川とか、今、八田江川なんかもしゅんせつをしています、県の土木事務所が。ここは2年ぐらい前に取ったばかりなんですけど、またやっているわけですよ。いたちごっこですもんね。これは災害、水害、土砂災害などで山のほうから流れてきて、今度の早津江川のものも筑後川上流から土砂が流れてきて、久留米からずっと筑後川沿いは両方とも堆積土がいっぱい積もっていますよ。なので、流域が狭いものですから、そこをどっと流れてきてから早津江川、港のほうまで来ているわけなんですね。

だから、今回取っても、筑後川自体をもう少し、泥土を取っていかないと、またたまってしまうので、そういう問題……

○千綿委員長

基本的に決算なので、そのときにやったかどうかという確認であれば。決算の質問をお願いします。

○重松委員

ストックマネジメントをやっていますけども、この事業は1年に1回やっているんですか。2年か3年に1回とか。要するに、航路しゅんせつ、環境ですよ。

○糸山水産振興課長

まず、漁港の泊地につきましての基本的な考えでございますけども、5年に1回の大規模なしゅんせつ、それと、残りの4年間につきましては小規模なしゅんせつという形で進めております。

また、航路につきましても、5年から6年に1回の大規模なしゅんせつという形で私どもは事業を進めているところでございます。

○千綿委員長

ほかには。

(「なし」と呼ぶ者あり)

ないようでございますので、それでは、歳出11款1項農林水産施設災害復旧費について、執行部の説明をお願いします。

◎第70号議案 令和元年度佐賀市一般会計歳入歳出決算中、歳出11款1項 説明

○千綿委員長

説明が終わりましたので、皆さん御質問等があれば挙手を。よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

質問ないようでございますので、執行部の方は退席していただいて結構でございます。委員の方はそのままお残りください。

◎執行部退室

○千綿委員長

それでは、本日の決算議案審査に関して現地視察の御希望はございますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それでは、委員会から執行部に対して意見提言を行うべき案件について協議を行いたいと思います。

本日の決算議案審査において委員会としての意見提言を取りまとめる案件の候補として、さらに協議、検討が必要な事項とかはありますか。

◎意見・提言対象案件抽出に関する委員間協議

○千綿委員長

今日の審査の中では、6次産業化の部分と鳥獣被害の部分、この2つを候補とするということによろしいですか。

それでは、今日の委員会はこれで終了します。

次の委員会は明日9月4日金曜日の10時からということで予定しておりますが、現在接近している台風10号の影響により、開催時間等の変更がある可能性があります。多分まだ大丈夫だと、多分、土曜日、日曜日、月曜日になると思うんですが、可能性があるということで、お含みおきをいただきたいと思います。何かあった場合にはメールでお知らせしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

では、これで本日の経済産業委員会を終了いたします。お疲れさまでした。